

全員主役の技術改革 ーノーリフティングケアでHAPPYにー



社会福祉法人光輪会

特別養護老人ホーム常照苑くすのき通り



施設概要

令和2年 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業

モデル施設として参加

令和3年 メンター施設として認定

令和4年 アドバイザー施設として認定

令和5年 3施設連携し協力態勢の強化

1期生:常照苑くすのき通り

2期生:常照苑サンシャイン

アルデンハイムヨコクラ

令和6年 3施設合同研修会を開催

他の事業所との関わりで情報共有、意識統一を図る

<入居者>

定員: 30名

平均年齢: 91.8歳

平均介護度: 3.8

<職員>

職員人数: 28人

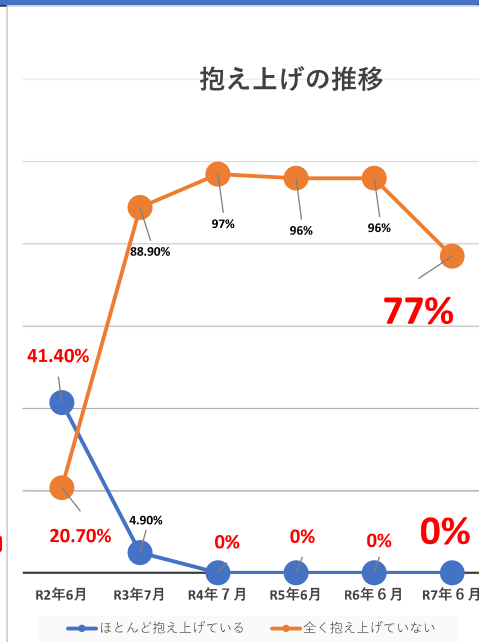
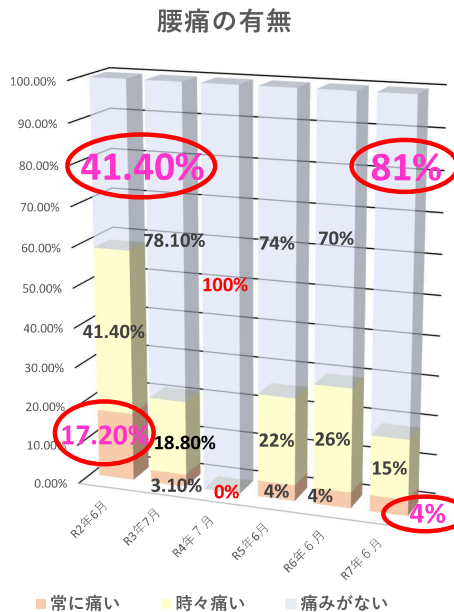
男性: 5人 女性: 23人

外国人(インドネシア)

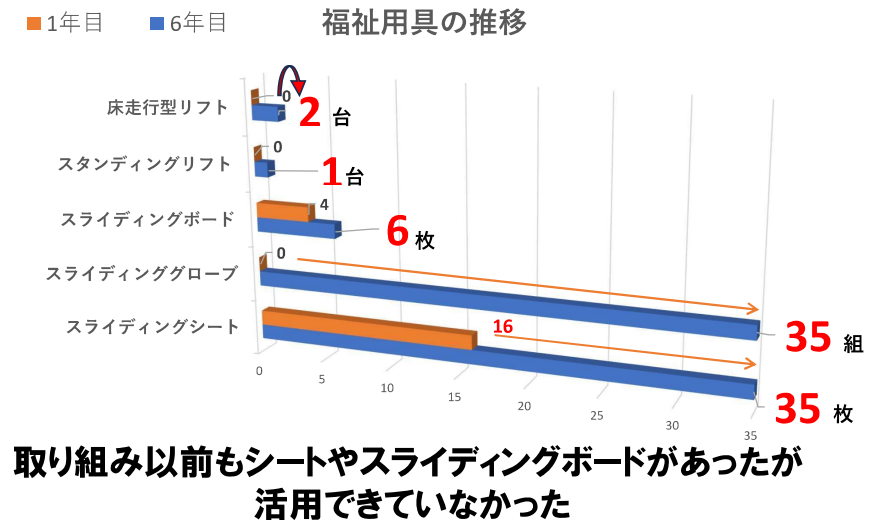
男性: 1人 女性: 5人

平均年齢: 43歳

腰痛の有無と抱え上げの推移



福祉用具の推移



今では福祉用具は必須のアイテム

今年度の目標

入居者一人ひとりに合った
オーダーメイドの個別ケアを目指していく！

その為に...

法人全体の
技術獲得を目指す！！

技術【評価②】

技術テキスト1人1冊購入
自己研鑽の環境整える

技術動画で事前学習



特別養護老人ホーム
常照苑くすのき通り

短期入所

特別養護老人ホーム
常照苑サンシャイン

グループホーム
恵のいえ

デイサービスセンター
あたご苑

デイサービスセンター
ねむの木

技術習得
全11項目
(黄色本)

技術の習得
優先する技術
・身体の使い方
・立ち上がり
・座り直し

腰痛予防体操が定着

評価者はSlackで情報共有
確認するポイントが明確！

技術【評価計画①】

評価者

(有) サンステップ 山田様
技術認定合格者職員:理学療法士 1名 介護福祉士 2名



法人全体の評価を実施！！
全員合格を目指す！！



新規評価表作成
統一性
評価者の相互確認

職員の優先順位
重要性
アセスメント担当職員から

日程を順次作成
逐次性
期間を開けずに実施

①ノーフティングケア ～身体の使用方～		評価者			
○評価者による評価のための身体の使用方		※評価者名記入			
項目	ポイント・留意点	評価者		評価者	
		1期	2期	3期	4期
1 評価者による評価	・評価者による評価は、評価者自身が評価者として行うこと。 ・評価者による評価は、評価者自身が評価者として行うこと。 ・評価者による評価は、評価者自身が評価者として行うこと。				
2 評価者による評価	・評価者による評価は、評価者自身が評価者として行うこと。 ・評価者による評価は、評価者自身が評価者として行うこと。 ・評価者による評価は、評価者自身が評価者として行うこと。				

最終合格チェック表											
評価項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
評価											

技術評価チェック 合格の可否報告書			
評価者	評価	①	②
山田			

自分の中の変化

①ノーフティングケアを始める前の心境

慣れない環境と文化・介助方法に戸惑いを感じていた

不安・恐れ

言語・
コミュニケーション
の壁

②ノーフティングケアを取り組み始めての心境

技術を習得したことで、
介助方法だけでなく、仕事に対する考え方が変わった

介助への自信
プロ意識の向上

将来への希望

環境

入浴介助

CX-Line HL
移動式ストレートレール

デモ機依頼

立位介助 補助機器
Rizer BASE
ライザー ベース



- 一人で介助ができる
- 双方に負担なく安全移乗ができる

短期入所フロアには
床走行式リフトの導入



- 構造上の問題
（ベッドの位置
カーテンレールなど
○セッティングに時間が…
「寒い」との声

要検討

評価者の気づき

- ・職員の不良姿勢や体重移動への意識の変化
- ・技術獲得へモチベーションの高さを実感
- ・技術研修を通して評価者自身も成長できる

見えてきた課題

- ・職員間の技術レベルの習得度合いのバラつき
- ・技術認定合格者の増員
- ・評価者の技術を人に伝える難しさ

意識

様々な福祉用具を活用することで気づきを得る！！



グループ内で情報共有
適した対象者に使用した時の必要性
双方の負担の軽減

P (計画) D (実行) ↑ C (評価) A (改善)

目的

アセスメント

職員研修

重要

起点

必要なニーズの把握
個別性のケアに繋ぐ
怪我や事故の防止



目的が明確化することで職員の意識変化を促す！！



これからに向けて



基本技術を確実に習得！！

オーダーメイドの個別ケアへの展開

PDCAの継続⇒統一したサービスの提供

人材育成や地域へ情報発信で理解促進

利用者・家族の安心と信頼の向上